



# 未来

令和8年5月29日発行

第3号



都立城東特別支援学校長

秋本 友美

## 確かな積み上げが導く、これからの学び

校長 秋本 友美

5月24日(日)駒沢オリンピック公園内で行われた「障害者スポーツ大会」に行ってきました。参観した陸上競技では、爽やかな空の下、チームで行うリレーや個人種目で、13歳から成人までのアスリートたちの「キラリ」と輝く場面を見られました。

でも、私が見たのは、「彼らの生活の中の切り取られた、ほんの一場面」です。

この日に至るまでの彼らの日々の姿、その姿を支える人々の想いや願い、さらには、この日以降の新たな目標や「こうりたい!」と湧き出る気持ち、「悔しい」という想いもあったかもしれません。

どのように心が変化し、これからの「糧」にしていくのだろう・・・と思いながら、表彰台に立つ彼らに賞賛と、敬意を込めてメダルを授与させていただきました。



このことから改めて・・・「できた!分かった!」は、成長を促すエッセンス。「伝えたい!」も同様です。さらに「伝わった!」の実感をもてることは、自信につながります。

このスパイラル(好循環)の根幹は、「あれ?なんだろう?」「やってみよう!やってみたい!」と【学校で言えば】知的好奇心をくすぐる授業や、【御家庭で言えば】生活の中での関りや声掛けなどの支え。

さらには、「自分は大切にされているという実感をもてること」。

これらは「信頼関係の中で」「毎日の生活の積み上げの中で」「主体的な動きの場面創出の中で」育まれるのは、言うまでもありません。そして、学校だけでは決して為しえません。

5月から始まった「毎月の授業参観」は、学校教育と家庭教育が「同じ方向」を共有し合う一つの場面です。参観を通じて「建設的な対話」を今後も重ねていけますよう、よろしくお願いいたします。

最後に、4月の全校保護者会で触れました、創立10周年記念式典に関連したアニバーサリー企画の御紹介です。

「子供たちのできた!」を学校・家庭・地域で育むために、ぜひ、共に学び「今を」「これからの」「対話」を通じて考えてみませんか。多くの方々の御参加、お待ちしております♪

アニバーサリー企画 みんなの「できる」が未来を拓く 10 Years ANNIVERSARY

①キャリア支援・発達に関する学び

筑波大学教授 藤田 晃之先生

【7月24日(金)午前10時~12時】

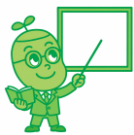
②次期学習指導要領に関する学び

特別支援教育調査官 加藤 宏昭先生

【7月27日(月)午後2時~4時15分】



本校HPの「新着情報」「お知らせ」欄を御確認ください。どちらも申込メ切は、7月10日(金)



## 新しい「城東の学び」がスタートしました～教育課程の実施と検証～

教育課程ライン主任教諭 平石あゆみ

昨年度、本校では「城東の生きる力」を育むことを目標に、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」という視点を大切に、教育課程の再編成を進め、4月から新しい週時程での授業が始まりました。

小学部では、毎日同じ流れで、国語や算数の集団学習と個別課題学習、朝の運動を行っています。

集団学習と個別課題学習の間に5分間の休憩を設定することで、活動にメリハリが生まれ、**集中して学習に取り組む姿**が見られるようになってきています。

中学部では、2学年合同での朝の運動、2・3年生縦割り班（異なる学年の生徒が一緒の班になって活動するグループ）での作業学習などが始まっています。

学年を超えた活動をとおして、集団生活の幅が広がり、**上学年では、リーダーシップや責任感**が芽生えてきています。下学年では**身近なモデルができる機会**となり、少しずつ相手を意識する様子も見られはじめています。

また、5月からは授業参観（年間10回）も始まりました。少しずつ新しい環境に慣れた様子を御覧いただけたのではないのでしょうか。**教育の質を高めるためには、実施した内容を検証し、改善につなげていくことが大切**です。保護者の皆様にも、お子様にとって授業内容や学び方を見ていただき、よりよい学びにつなげるためのお力添えをいただければ幸いです。

学校での学びは、**家庭とのつながりの中で力となり、やがて生涯学習・社会参加へとつながっていきます**。「こんなことができるようになった」「学校で〇〇が楽しかった」「〇〇が難しかった」といったお子様の様子や声なども、ぜひ担任までお知らせください。



## 教科研究会と「単元配列表」について

学力向上ライン主任 梅津良

今年度、本校では「教科研究会」を立ち上げました。

これは、**子どもたちの学びをよりよくするために、授業の計画や教材、学習する順序などを先生たちが一緒に見直し、話し合う取組**です。

「教育課程」や「学力向上」と聞くと、少し堅い印象をもたれるかもしれません。

しかし実際には、子どもたちの学びの積み重ねを確かめながら、**よりよい授業づくりにつなげていくための話し合い**を行っています。これまでの教科会の役割に加え、対話を通して教科の学びや授業の流れを見直していくことが、この研究会の特徴です。

その中心が「単元配列表」です。これは、**1年間の学習の流れを一覧にした表**です。

**どの教科で、いつ、どのような学習を行うのかを見渡しやすくすることで、教科同士を関連付けた学習ができないか、地域と関わる学習をどこに位置付けるか、学び残がないか、学習の順序や時期が適切か、といったことを具体的に確かめることができます**。また、よい実践やアイデアを、より早く柔軟に授業へ生かせることも大きな良さです。

現在、この単元配列表の作成と見直しを進めています。ただ、表を作ること自体が目的ではありません。**表をもとに先生たちが対話し、意見を交わしながら、よりよい学びを考えていくこと**を大切にしています。

今後も、保護者や地域の皆様からいただく御意見（学校評価等）も参考にしながら、子どもたちの将来を見据えた学びの計画づくりに、学校全体で取組んでまいります。



## 【未来後記】『できた』が育てる挑戦する力

副校長 和田 大

「やってみたい」「挑戦したい」という気持ちは、励まされただけでは育ちにくいものです。小さな「できた」の積み重ねが、「次もやってみたい」という意欲につながり、挑戦する心を育てていくと信じています。

「教育課程の再編成」や「単元配列表の作成」は、できなかった経験（学びの残し）をできるだけ減らし、学びを積み重ねていくこと、その学びを地域での活動と結び付けながら、分かりやすく整理していくことを目的としています。これからも、児童・生徒が将来、自分らしく生活し、社会の中で活躍できるよう、「やってみたい」「挑戦したい」という前向きな気持ちを、保護者の皆様、地域の皆様とともに育ててまいります。